

茨城高等学校・中学校

## 校長室だより

2024年4月26日

### メタ認知で、成績爆アゲ大作戦！！

新年度がスタートしました。この4月、新しい学年に進学、進級した茨高生茨中生諸君の胸の内には、よーしがんばるぞ！という勉強欲がメラメラと燃え上がっているに違いありません！（…そう信じたい）しかしこれまでも、やる気がないわけではないのだけれど、なかなか勉強に向かえない、勉強をがんばっているつもりだけれど、いまひとつ結果に結びつかない、というような人も少なくないのではないのでしょうか？今回の校長室だよりでは、そんな悩める茨高生、茨中生諸君とともに、学力向上、成績爆アゲの方法について考えていきたいと思います！

君は「メタ認知(にんち)」について聞いたことがありますか？「あー知ってる、学校の近くにもあるよね？文化祭とかでよく買い出しに行く激安スーパー」といま考えたキミ、それはメガドンキです。

メタ認知の「メタ」とはギリシア語で「一段上」を意味します。近年、ビジネス用語としてもよく聞くこのことばは、「自分が認知(考える・感じる)していることを、一段上の視点から客観的に把握すること」をいいます。例えば、マラソン大会で「もうヘトヘトで足が痛くなってきたけど、ド根性で走り切るぞー！」と思っている自分を、もう一人の自分から見て「残り2キロだから体力的には問題ないけど、これ以上足の痛みが強まると、やる気だけでは走れなくなるから、完走するには無理せず少しだけペースを落とした方が有利だな」と考えるようなことです。

このメタ認知が、学力向上のカギと述べているのが『使える！ 予習と復習の勉強法—自主学習の心理学』(ちくま新書)です。著者の篠ヶ谷圭太さんは、認知心理学の考え方にもとづき、勉強のやり方や教え方について研究している研究者です。この本を読んでいく中で、筆者がかつて授業の中で生徒たちに言っていたことと重なることや、なるほど、こういう教え方や導き方もあるのだなあ、という気づきにたくさん出会いました。本来であれば、生徒諸君全員に読んでほしい気もするのですが、読書はちよと、という人もいるでしょうし、200ページ超の新書を読み切るには時間も労力も必要だと思うので、自分なりにポイントをまとめて諸君にお伝えしたいと思います。

### ○わかるってどういうこと？

ここからは、『使える！ …』で述べられていたことを抜粋し、まとめながら進めていきます。

まず『使える！ …』では、学習とは何か、理解するとはどういうことかについて述べています。理解とは「情報処理」です。私たちは、新しい情報に触れると、それをすでに自分が持っている情報(知識)と結びつけて処理を行い、その情報を理解し、新しい知識として獲得していきます。この一連の情報処理のプロセスが学習です。しかし、「新しい情報を、すでに知っている知識を使っ

て処理する」などと言われても、イマイチしっくりこないかもしれません。そこで、本の中に出ていた例をそのまま引用してみます。

次に示すのは、知識のある無しで文章の理解の深さが変わってくる、ということを説明する際に使われていた例です。まずは「 」内の文章を読んでみてください。

「手順は単純である。まず、物をいくつかの山に分ける。もちろん量が少なければ一つの山でも十分である。もし設備がないためにどこかよそに行かなければならないのなら話は別だが、そうでなければ準備は整ったことになる。大切なことは一度にあまり多くやり過ぎないことである。つまり、一度に多くやり過ぎるよりも、むしろ少なすぎるぐらいのほうがいい。このことの重要さはすぐにはわからないかもしれないが、もしこの注意を守らないとすぐにやっかいなことになるし、お金もかかることになる。最初、全手順は複雑に見えるかもしれない。しかし、すぐにそれは生活の一部となるであろう。将来このしごとの必要性がなくなることを予想するのは困難であり、けっして誰もそんな予言をしないであろう。手順が完了した後、材料はふたたびいくつかのグループに分けて整理される。それからそれらはどこか適当な場所にしまわれる。この作業が終わったものは、もう一度使用され、ふたたびこのサイクルが繰り返されることになる。面倒なことだが、しかしこれは生活の一部なのである」

さあ、一読して君は上の文章が理解できたでしょうか？なかなか頭に入ってこなかった、という人が多いのではないのでしょうか？ちなみに、筆者は「？？？」という感じでした。ここでタネ明かしをすると、実はこの文章は「洗濯」の話をしています。洗濯についての文章だということをふまえて、もう一度上の文章を読み直してみてください。おそらく内容がすーっと理解できるはずですよ。それは、私たちがすでに洗濯についての知識を持っていて、一文一文が何を言っているのか、既存の知識と結びつけながら意味づけしていくことができるからです。

理解するとは、知識と知識を結びつけることであり、理解するためには知識が必要である、という点について納得してもらえたでしょうか。

近年、「探究型」の学力がクローズアップされています。知識をつめこむだけでなく、自分で問いを見出し、思考し、解決していく能力が大切だ、という考え方自体は、めまぐるしく変化する社会に対応して生きていくためには当然であり、筆者もそれを否定するつもりは毛頭ありません。しかし、探究型学力の必要性が議論されるあまり、知識を身につけることの重要性が見落とされているとしたら、それはどうなのかな？と感じます。

筆者は国語教員として長年、受験生の小論文の指導に携わってきました。問いを立て、論理を構成し、自分なりの結論(考え)に導くのが小論文ですが、指導する中で苦労したひとつが、知識や情報の裏付けのない小論文でした。知識の裏付けのない小論文は、単に中身が薄っぺらになるだけでなく、独善的な内容に陥りがちです。

例えば、僻地(へきち)医療をどう実現するか？という問いに対して、ある生徒が、医療のデジタル化をすすめ、個別のオンライン診療を充実させる、という結論を導き出したとします。しかし、人口減少の激しい僻地と呼ばれる地域では、同時に極度の高齢化が進行しているのが一般的です。デジタル機器を自分一人では扱えないおじいちゃん、おばあちゃんはどうしたらいいの？と質問すると「えー、じゃー先生は、どうしたらいいと思うんですかあ？」と不満げに口をとがらせる生徒もたまにいましたが、「人口減少地域では同時に高齢化の進行が著しい」という知識を持って

ていれば、同じくデジタル技術を活用するにしても、もう一工夫したアイデアが出せたはずです。

「知識があることで深く考えることができる」「知識同士が結びついて深く理解した状態になって、はじめてその知識は使える知識となる」という『使える！…』の主張は、筆者にとって非常に納得できるものでした。

### ○メタ認知を戦略化する

君たちは勉強するとき、どんな工夫をしていますか？心理学の世界では、勉強するときの様々な工夫を「学習方略(lerning strategy)」と呼ぶらしいのですが、ちょっと言い方が専門的で堅苦しいので、本文ではstrategyを「戦略」と訳したいと思います。

学習戦略は、「認知的戦略」と「メタ認知的戦略」に分けることができます。ちなみに、認知とは情報処理の別名だと思ってください。認知的戦略は、例えば「覚えるまで何回も書く」「繰り返し問題を解き、解き方を暗記する」「なぜそうなるのか理由を押さえる」「図や表で情報を整理する」など、情報を取り込むために行っている工夫のことをいいます。これについては、また後で触れたいと思うので、ここでの説明は省略します。

では、メタ認知戦略とはどういうものなのでしょう？『使える！…』によれば、「勉強をうまくやっていくために、勉強をしている自分をもう一人の自分がチェックしたり、コントロールしたりするような工夫」と説明されています。普通、メタ認知は「モニタリング」と「コントロール」の二つの活動に分類されることが多いのですが、『使える！…』ではそこにもう一つ、「プランニング」という項目を付け加えています。

メタ認知などとイカツイ名称からすると、何か特殊ですごいことという印象を受けるかもしれませんが、君たちも普段の勉強の中で無意識にメタ認知を活用している場面は珍しくないと思います。例えば、単語帳で英単語を覚えるとき、覚えているかどうかを自分でテストをしてみて、思い出せなかった単語に印をつける、というようなやり方をしたことはないですか？自分で自分がどこまで理解しているかを確認する作業は、メタ認知のモニタリングにあたります。

また、ややこしい評論文を読んでいて書かれている内容が頭に入っていないとき、「読むスピードを少し遅くしてじっくり読もう」「わからなくなったところからもう一度読み直そう」と、自分の学習行動を調整するのがコントロールです。授業中、先生の寒いダジャレはスルーするけれど、このところは大事なところだからしっかり聞こう、と意識するのもコントロールの一種です。プランニングは文字通り、テストや受験の前に学習計画を立てることを指します。

ここまで読んで、「なーんだ、あらためて言われなくても、これだったら今までも自分でやってるよ～」と思った人も多いと思います。それはそのとおりなのですが、注意してほしいのは、それらがメタ認知を意識して行われているか、という点にあります。勉強している自分をもう一人の自分の視点から眺め、モニタリングやコントロールを駆使して勉強を上手にやりくりしていくというメタ認知の手法が、「戦略」として意識的に活用できているかが大切なのです。

### ○メタ認知でやる気度アップ！

『使える！…』を読んでいて、筆者が「これは本当に使える！」と思ったのは、勉強にやる気が起こらないとき、メタ認知を利用してやる気をアップする、というやり方です。おそらく誰でも、宿題が終わっていないにもかかわらずやる気が出ずに、つついテレビを見てしまったり、スマホに手が伸びてしまったりというような経験があるでしょう。そんなときに限って、親からガミガミ言わ

れたりして、ますますモチベーションがさがってしまいますよね。そんな問題を克服するうえで、自分で自分の行動をコントロールするメタ認知は、学習者の「学ぶ力＝自分で自分の勉強を進めていく力」を高めることがわかっています。

たとえば、学校の先生が宿題を出して、提出したかどうかを評価するだけでなく、学習計画の立て方や管理のしかたを教える、家庭学習の時間を確保する工夫を身につけさせるなど、生徒に「プランニング」を意識させる指導をおこなうことで生徒の学習力が上がった、という研究結果があります。自分にどう勉強させるかを考えるという点で、プランニングはメタ認知的戦略の第一歩といえるでしょう。計画も立てず、やみくもに勉強しても絶対に成績は上がりません。

では、具体的にどのように計画を立てればいいのでしょうか？「やる気」に結びつくプランニングの条件として、「実現可能な計画を立てること」があります。やる気についての心理学の研究では、人間は「できそうだ」という期待感が持てないとやる気が出ないことが知られています。小学生に問題集で勉強をさせる実験で、「1週間で42ページをやる」という目標を与えた場合と、「1日6ページやる」とした場合では、後者の方がやる気が上がり、成績も伸びたという結果が出ています。ハードルの高すぎる目標や時間的に遠い目標では、やる気を高めにくいということです。

また、計画の具体性も大切です。「今日は数学と物理の宿題をやらなきゃ…」と考えているだけではなかなか前に進めません。何時からどの教科を勉強するとか、宿題は何時までに終わらせるとか、スケジュールに組み込むべきなのは言うまでもないでしょう。勉強の目標を決めたり、勉強に優先順位をつけるのもプランニングに含まれます。

プランニングができれば、その計画がちゃんと実行できているかどうか検証する必要があります。それがモニタリングです。計画が予定どおり実行できていれば問題はありません。モニタリングがその威力を発揮するのは、学習がうまくやれていないときです。『使える！…』では、宿題になかなか取り組めないとき、「宿題をいつ始めて、どのくらいかかったか」「どこで誰と取り組んだか」「気を散らすものは近くにあったか」などのチェック項目をつくり、自分の学習状況を可視化するモニタリングの手法が紹介されていました。要するに、なぜ自分が勉強に取り組めないのか、やる気が出ない原因は何かを特定することが、モニタリングの最大の役割といえるでしょう。

モニタリングとコントロールはセットで運用されます。モニタリングを行うことで、やる気を妨げている原因が明確になれば、自分の行動をどうコントロールしたらよいかははっきりするわけです。やる気が出ない、勉強に取り組めない原因は、人によって色々ですから、現実にはそれぞれのケースに応じたコントロールが必要になるのですが、『使える！…』ではそれを「自立的調整戦略」「協同戦略」「成績重視戦略」の3つに大きく分けていました。自立的調整戦略は自分の意識の持ち方でやる気を高めようとするもので、勉強の内容がおもしろくなるように工夫する、勉強を終えたときの達成感を想像する、自分が集中できる場所で勉強する、今やっている勉強は自分に必要なことだと言い聞かせる、などが含まれます。協同戦略は、友達と一緒に協力しながら勉強する、成績重視戦略は、勉強しないと単位が取れない、成績のために勉強すると考える、というやり方です。

結論から言うと、持続性があり、学習の取り組みを推進したのは自立的調整戦略のみでした。協同戦略は、友達とのおしゃべりに夢中になってしまい、学習に取り組めないのではないかと、成績重視戦略では、成績のことを考えてやる気を出そうとしても続かないのではないかと、という考察が紹介されていました。

またこの他にも有効なコントロールの方法として、勉強が終わったらアイスを食べるといい、ゲー

ムを30分していい、などの報酬を用意しておく「ごほうび戦略」、カレンダーにその日やるべき勉強を書いておき、終わったら傍線で消していき勉強が進んでいる実感を味わう「達成感戦略」、なども紹介されていました。ぜひ試してみてください。

### ○成績爆アゲ勉強法～実践編～

さて、またいつものように、校長室だより大長編化の予感がしてきたので、ここで「理屈はわかったけど、じゃあ実際にどう勉強したら成績が上がるの？」というキミのために実践的なアドバイスに移っていきたいと思います。それぞれの戦略が「認知的戦略＝情報を取り込むための工夫」なのか、「メタ認知的戦略＝自分を、もう一人の自分がコントロールする工夫」なのかを( )内に記しておくので参考にしてください。

#### ①ただ繰り返す学習は効果薄。理由を押さえて「深い理解」を。(認知的戦略)

クラス担任をしていたとき、よくテスト前のホームルームの時間を自習の時間にあてていました。特に中学生などでは、「各自好きな教科のテスト勉強をすていいよ」というと、おもむろにノートを取り出し、漢字や英単語をグワーっとものすごい勢いで書き始める生徒が一定数いました。漢字や英単語ならまだわかりますが、中には「794、794、794・・・」「1467、1467、1467・・・」のような奇妙な数字の羅列を書き連ねる生徒もいて、恐る恐る「それ、何？」と聞いてみると、すました顔で「年号」という答えが返ってきました。

ここまで読んで「あ～それ自分だ」と思った生徒諸君には大変申し上げにくいのですが、『使える！・・・』によれば、単純に反復するだけ、暗記するだけの学習法は成績の向上にはほとんど効果がみられない、とあります。

それではどんな勉強の仕方が効果的なのでしょうか？本文では前に、「わかる」とは「知識と知識を結びつける」ことだと述べました。勉強でも同じです。今まである知識をもとにして新しい知識を取り入れ、深く理解しようとするのが成績向上と強い相関性を持つ、と書かれています。

一例としてあげると、筆者は古典の授業を担当することが多かったのですが、当時(今でも?)受験生に大はやりしていたのが、超一流スナイパーの殺し屋が主人公の漫画のタイトルをもじった、いわゆる「語呂合わせ」で単語を覚える古文単語帳でした。筆者はこの単語帳に徹底的にアンチの態度を貫き、隠し持っている生徒がいたらその場で取り上げ、ビリビリに引き裂いてかまどで燃やしていました(ウソ)。

まあ、アンチだったのは事実です。なぜかという、例えば「かたはらいたし」という古文単語は、一般的な単語帳では「①見苦しい、苦々しい、②きまりが悪い、恥ずかしい、③気の毒だ」の三つの意味に分類されていますが、これを語呂合わせですべて覚えようとするのは無理です。また語呂合わせの文章自体を覚える手間も馬鹿にできません。筆者は、単語の意味は語源から理解するようにと生徒たちに言っていました。「かたはらいたし」は漢字で書くと「傍ら痛し」で、「近くに存在するものによって心が痛む」というのが原義です。それが枝分かれして「(近くに嫌なものがあるって心が痛み)見苦しい、苦々しい」、「(近くの人からの視線を感じて心が痛み)きまりが悪い、恥ずかしい」、「(近くにかわいそうな人がいて心が痛み)気の毒だ」となるわけです。このように理屈にそって深く理解した方が覚えやすいし、記憶として定着すると思いませんか？

数学や理科でも、解き方を丸暗記するのではなく、「なぜこの解き方で答えが出るのか」「なぜこの公式が成り立つのか」を意識して学んだ方がはるかに成績向上に効果があると書かれてい

ます。意味の分からない情報に「理由」を加えて意味がわかるようにすることが、まさに「学習」そのものなのです。

ちょっと堅い話になりますが、学習には深い処理を大切にする考え方(＝認知主義)と、深い処理を大切にせず、とにかく頭に詰め込めばいい、なぜそうなるのかわからなくても答えがあつていればいいという考え方(＝非認知主義)があります。成績が伸びるのは、もちろん認知主義にもとづいた学習です。個人的な感想ですが、自分が教員として関わってきた生徒を思い出すと、勉強が苦手で、努力が結果に結びつかない生徒たちに共通する特徴として「考えることを面倒くさがる」という傾向があつたように思います。がむしやらとにかく量をこなす、なぜそうなるのかを飛ばして結果だけ求める、という勉強法はいつか必ず行き詰まってしまうものなのです。

## ② ややこしいことは整理してまとめる(認知的戦略)

物がぐちゃぐちゃに入っている机の引き出しを想像してください。そこからハサミを取り出すとします。ところが、ペンや定規やホチキスやセロテープ、読まずに押し込んだプリント、コンビニのレシート、誰かのお土産のキーホルダー、片っぽだけの手袋、食べかけのお菓子の袋などの山に埋もれてハサミはなかなか見つかりません。

同じことが知識にも言えます。テストで何かの知識を問われたとき、「あ、アレだ！でも、えーと待てよ？アレって何だっけ？あーもう、ぜったいわかってるのに！」という経験はありませんか？

『使える！…』では、情報を自分なりにまとめたり整理する工夫を行うことが成績向上に有効であることが述べられています。筆者の篠ヶ谷さんは自身の大学受験時の経験として、秦の始皇帝と前漢の武帝を表に整理して理解したと述べています。始皇帝と武帝は、どちらも異民族に対して手を打ったり、国内経済をうまく回す工夫をしたり、やっていることが結構似ています。そこで篠ヶ谷さんは下のような表をつくって整理をしたと述べています。「ごちゃごちゃしているな」「紛らわしいな」と思ったとき、表を作って整理したり、体系化してまとめたりすることで理解がすすむことは心理学的にも証明されているようです。

### 【始皇帝と武帝】

	秦の始皇帝	前漢の武帝
対外政策	万里の長城	匈奴遠征(衛青・霍去病)
国内政策	郡県制 度量衡	専売制 均輸・平準法
貨幣	半両錢	五銖錢

実は、筆者も授業の中で、これと似たことを言ってきました。ややこしくて、生徒諸君に嫌われる勉強のひとつに古典文法があります。筆者は、「頭の中に引き出しを作って、助動詞〇〇の知識はここ、助詞□□の知識はここ、というふうに体系化、システム化して理解しなさい」と指導していました。

例えば、接続助詞の「ば」には順接確定条件という意味があり、「～ので」「～すると」などと訳します。面倒くさがるの生徒の中には、「接続助詞」、「順接確定条件」などの名称を省略して訳し方だけ丸暗記する生徒がいます。しかし、見た目が同じ「ば」でも、「もしも…なら」と訳す順接仮定条件の接続助詞「ば」や、係助詞「は」が濁った「ば」(「△△をば…」の「ば」)もあり、ただ訳を暗記しただけの生徒にはその識別をすることができません。品詞や文法的働きの名称をきちんと押さえてインデックス(索引)とし、体系的な理解をすることで、はじめて文法を使いこなして古

文を読むことができるようになるのです。

### ③「どのように」を大切に、「学ぶ力」を身につけよう(メタ認知的戦略)

人間の情報処理の仕組みでは、新たな知識を取り入れるとき、自分の中にある知識とつながたり、整理してまとめたりすると、記憶に残りやすく使いやすい知識となることは分かってもらえたでしょうか。こうした工夫を実践するうえでキーワードとなるのが「どのように」です。『使える！・・・』の中では、目の前の情報をどのように解釈するか、問題を解くときにどのように考えればよいか、普段からどのように勉強すればいいか、失敗を活かすにはどのようにしたらよいか、など「どのように」がとても大切になる、と述べられています。

よく、「勉強する気はあるのだけれど、勉強の仕方がわからない」という生徒がいます。そんなとき筆者はいつも「最初から100点満点の勉強法ができて人なんかいないよ。まずは自分のやり方で勉強を始めてみて、それでうまくいかなかったら、どのように改善したらうまくいこうと考えればいいんじゃない？」とアドバイスしていました。これって今考えてみると、メタ認知そのものですね？

こうして、自分のやり方が本当にベストなのか、もっと勉強の質を高めていくことはできないか、と工夫することは、常に「どのように」を考えながら学ぶ習慣につながります。実はこれは、高校、大学を卒業し社会人になってからも必要となるスキルです。勉強は学校を卒業したら終わるわけではありません。仕事に就いたらその仕事に必要なことを身につけなければならないし、社会人として生きていくうえで学ぶべきこともたくさんあります。私たち人間は、一生学び続ける学習者だといえます。

学校で勉強していく知識の中には、「なぜこんなことを学ばなければならないのだろう？」「この知識が将来何の役に立つのだろうか？」と思うこともあるかもしれません。しかし、『使える！・・・』ではそれを、「学ぶ力」を身につけるために必要なトレーニングなのだ、と述べています。自分が置かれた立場や環境の中で、自立し、成長するためには、「どうやったらもっと上手に学べるか」を常に考えながら工夫できる「学ぶ力」を身につけていく必要がある、という『使える！・・・』の主張は、筆者にとって非常に共感できるものでした。

### ④予習→授業→復習の学習サイクルで理解を深める(認知的戦略・メタ認知的戦略)

おそらく君たちは小学生時代から、「予習、復習を大切にしよう」と言われ続けてきたと思います。「もーね、耳タコ！」という人もいるかもしれませんが、それでは本当に予習、授業、復習という学習サイクルが確立している人はどのくらいいるのでしょうか？

君たちは毎日6～7時間の授業を受けています。しかし、そのすべてをすんなりと理解できているわけではありません。多くの方は、授業を一生懸命受けていたにも関わらずよく理解できなかった、という経験があるのではないのでしょうか？授業では知らない用語が次々と出てきます。聞いたことのない、意味もさっぱりわからない用語がたくさん出てくるのに、さらにその先にある「なぜ」について、授業中だけで理解することは至難の業です。一方で、私たちは、新しい知識をすでに有している知識と結びつけて理解をするので、学ぶことについてあらかじめ知識を持っていたとしたら、理解を深めるチャンスはひろがります。『使える！・・・』ではまず、予習がとても大切だ、と述べています。

「でも、習っていない内容をどう予習したらいいの？」という人もいるでしょう。予習をがんばろう

としても続かなかつた、という人もいるでしょう。それは、「予習で完璧に理解しようとしている」からです。小学校のやさしい勉強ならいざしらず、中学、高校の勉強を独学でできる人などいません。(だから学校や授業があるのです。)予習は、次の時間に授業であつかう内容をざっと読んでみて、自分のわからないところが自覚できるレベルでよい、と書かれています。疑問点や、ここはこうなんじゃないかという推測を自分で把握しておけば(メタ認知)、授業の中で、どこに集中して聞けばいいのか、何を理解しようとするればいいのかははっきりします。場合によっては、授業の前に5分間、次にやる教科書の範囲を読んでおくことだけでも効果がある、と述べられています。

授業で理解したことを、記憶に定着させるのが復習の役割です。注意が必要なのは、復習が学習効果の薄い、単なる反復や暗記になっていないかのチェックです(メタ認知)。『使える! …』では、効果的な復習のやりかたとして、学習した内容を自分のことばで説明してみるのが手っ取り早くて有効な方法だ、と述べられていました。

まとめると、予習(疑問・推測)→授業(理解)→復習(定着・自己説明)の学習サイクルを習慣化して確立することが、成績向上の近道といえるのでしょうか。

☆ ☆

結局のところ、8ページにおよぶの大長編となってしまった今回の「校長室だより」ですが、めげずにここまで読んでくれた生徒諸君に感謝します。タイトルに「成績爆アゲ」と書きましたが、実際に成績を目に見えるかたちで上げるのは簡単ではありません。時間もかかるし、何よりもまだ結果の出ない時期に、自分を信じて努力を継続することが一番大変です。そんな、がんばっている自分を客観的に認識し、勇気づけていくのもメタ認知の一種でしょう。

月並みですが新年度に際して、「努力は決して裏切らない」という言葉を生徒諸君に伝えたいと思います。怖れず、あきらめず、自分のやる気に火を点けよう。4月は、そんな決意をするのに最適の時機だと思います。

※「校長室だより」は、本校のHPにも掲載しています。バックナンバーを読みたい人は、HPの「学校案内」→「校長室だより」からどうぞ。